

Kansai Economic Insight Monthly

2020/9/24

Vol.89 August/September

▼ APIR “Kansai Economic Insight Monthly”は、関西経済とそれに関連する中国経済の動向に関する分析レポートです。

▼ レポート公開時期は毎月第4週を予定しています。

▼ 執筆者は、稲田義久(甲南大学教授、APIR 研究統括兼数量分析センター長)、木下祐輔(APIR 調査役)、豊原法彦(関西学院大学教授)、郭秋微(APIR 研究員)、野村亮輔(研究推進部員)、吉田茂一(研究推進部員)、車競飛(APIR インターン)です。

▼ 本レポートにおける「関西」は、原則として滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の2府4県です。統計出所を発表している省庁などが「近畿」としている場合も「関西」に統一しています。

目次

要旨	1
関西経済のトレンドとCI, CLI	2
生産・労働関連	3
内需関連	6
センチメント	8
外需関連	9
中国景気モニター	11
主要月次統計	15
Release Calendar	16

要 旨

- 景気は足下・先行きともに底打ちの兆し -

- ✓ 7月の生産は2カ月連続の増産。水準は4月まで回復したものの、1-3月期平均比10%程度低い。主に増産となったのは、汎用・業務用機械工業、電気・情報通信機械工業等であった。
- ✓ 7月の完全失業率は2カ月連続の悪化。企業業績の悪化を受け、解雇や雇い止めが増加した。また、同月の有効求人倍率は7カ月連続の悪化、新規求人倍率は2カ月連続の悪化であった。
- ✓ 6月の関西2府4県の現金給与総額は名目で11カ月連続の前年比減少。就業時間調整やテレワークの推進で所定外労働時間は減少傾向にある。実質賃金は16カ月連続の同減少。所得環境は悪化が続いている。
- ✓ 7月の大型小売店販売額は10カ月連続の前年比減少。新型コロナウイルスの感染再拡大による外出自粛、長雨の天候不順などの影響によって、消費の回復は足踏みしている。
- ✓ 7月の新設住宅着工戸数は小幅増加し、2カ月ぶりの前月比増加。うち貸家と分譲マンションの寄与が大きい。
- ✓ 7月の建設工事出来高は2カ月ぶりの前年比減少となった。8月の公共工事請負金額は3カ月連続の増加となった。
- ✓ 8月の景気ウォッチャー現状判断DIは4カ月連続で前月比改善。新型コロナウイルス感染再拡大のペースが鈍化したことが影響したようである。
- ✓ 8月の貿易収支は7カ月連続の黒字となったが、輸出入いずれも前年比減少したため、貿易総額は11カ月連続の減少。なお、輸出では鉱物性燃料が減少し、輸入では原油が減少した。
- ✓ 8月の関空への外国人入国者数は在留資格をもつ外国人に対する再入国の条件が一部緩和されたこともあり、前月から幾分増加したものの、低水準が続いている。
- ✓ 8月の中国経済は回復が続いている。消費や輸出は改善している。一方、投資は依然として前年比マイナスが続いている。早期にCOVID-19の感染拡大を封じ込めたものの、世界的に再拡大が懸念されており、先行きは引き続き注意を要する。

【関西経済のトレンド】

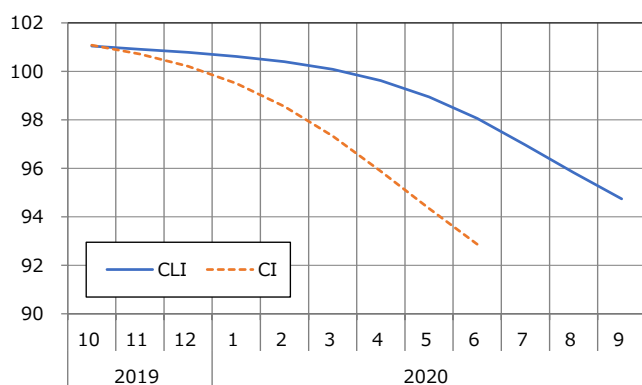
	2019年					2020年							
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
生産	↗	↖	↗	↗	↖	↖	↗	↗	↗	↗	↖	↖	
雇用	↗	↗	↗	↗	↖	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	
消費	↗	↖	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	
住宅	↗	↗	↗	↗	↖	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	
公共工事	↖	↖	↖	↖	↗	↖	↗	↖	↖	↗	↖	↗	↗
センチメント	↖	↖	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↖	↖	↖	↖
貿易	↗	↗	↖	↖	↗	↖	↖	↗	↗	↗	↗	↖	↖
中国	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↖	↖	↖

(※トレンドの判断基準)

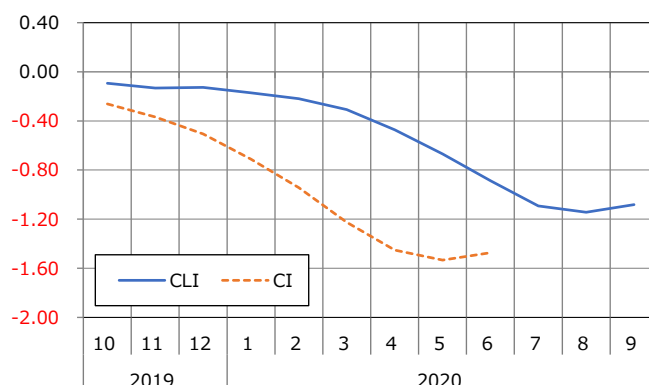
- ・**生産**：近畿経済産業局『近畿地域製造工業生産動向』生産指数(季節調整値)が前月比+0.5%以上であれば上向き、同-0.5%未満であれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・**雇用**：厚生労働省『一般職業紹介状況』有効求人倍率(季節調整値)が前月比で0.01ポイント以上の改善は上向き、変化がなければ横ばい、0.01ポイント以上の悪化は下向きとする。
- ・**消費**：近畿経済産業局『大型小売店販売状況』(全店ベース)が前年同月比で1%以上増加していれば上向き、同1%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・**住宅**：国土交通省『住宅着工統計』新設住宅着工戸数が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・**公共工事**：西日本建設業保証株式会社『公共工事前払金保証統計』公共工事請負金額が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・**センチメント**：内閣府『景気ウォッチャー調査』の近畿現状判断(方向性)DIが前月比で1ポイント以上の改善は上向き、1ポイント以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- ・**貿易**：大阪税関『貿易統計』の近畿圏貿易収支(入出超額)前年同月から500億円以上の改善は上向き、同500億円以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。

【関西の景気動向指数(CI一致指数・試作 CLI)の推移】

直近1年間のCI・CLIの推移(2019年10月～2020年9月)



直近1年間のCI・CLIの前月差(2019年10月～2020年9月)



(注)指数は2013年1月～2020年6月までのデータで計算されており、新型コロナウイルスの影響を反映している。

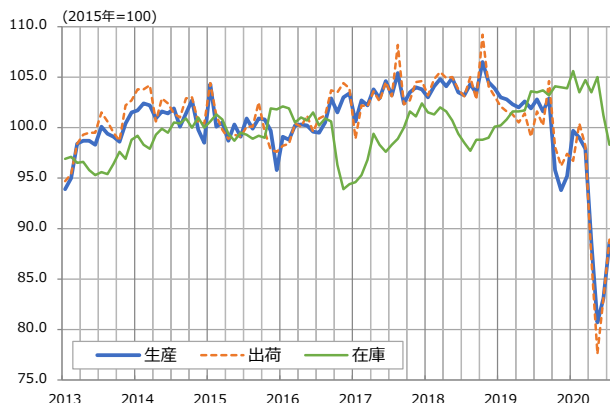
【生産・労働関連】

(1) 生産動向

関西 7 月の鉱工業生産動向(速報値: 季節調整済、2015 年 =100)を見ると、生産は 88.6 で前月比+6.6%と 2 カ月連続のプラス。4-6 月平均比+5.3%上昇した。このため、近畿経済産業局は基調判断を前月の「下げ止まりの動きで推移している」から「持ち直しの動きがみられる」と 2 カ月連続で上方修正した。なお、7 月の水準は 4 月(88.6)まで回復したものの、1-3 月期平均(98.9)から 10%程度下回っている。

出荷は 88.9 で前月比+7.0%と 2 カ月連続で上昇した。一方、在庫は 98.3 で同-2.9%と 2 カ月連続で低下した。

関西の鉱工業生産動向の推移(2013 年 1 月~20 年 7 月)

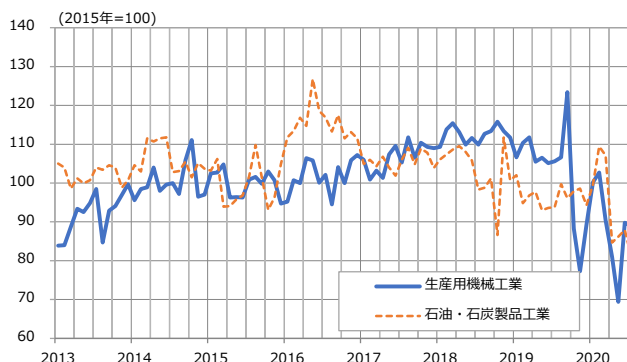
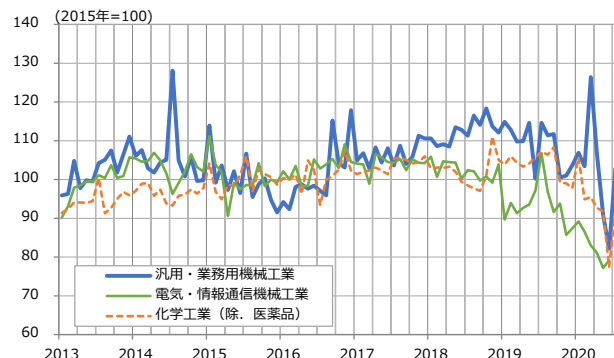


(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

7 月の生産指数を業種別にみると、増産となったのは、汎用・業務用機械工業(前月比+25.2%、4 カ月ぶり)、電気・情報通信機械工業(同+16.6%、2 カ月連続)、化学工業(除、医薬品)(同+19.1%、4 カ月ぶり)等であった。一方、減産となったのは、生産用機械工業(同-0.8%、2 カ月ぶり)、石油・石炭製品工業(同-7.5%、3 カ月ぶり)等であった。なお、生産と強い関係がある日銀の実質輸出(季節調整済、2015 年 =100)を見ると、7 月(速報値)は 101.6 で前月比+2.8%と 2 カ月連続のプラスであった。

関西の業種別生産指数の推移(2013 年 1 月~20 年 7 月)



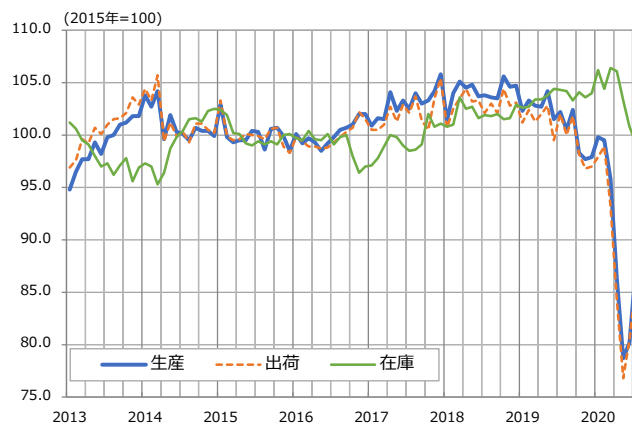
(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

全国 7 月の鉱工業指数(速報値: 季節調整済、2015 年 =100)を見ると生産は 87.2 で前月比+8.7%と 2 カ月連続の上昇。結果、7 月は 4-6 月期平均比+6.6%と上昇した。

出荷は 85.8 で前月比+6.6%と 2 カ月連続の上昇。一方、在庫は 99.3 で同-1.5%と 4 カ月連続で低下した。

全国の鉱工業指数の推移(2013 年 1 月~20 年 7 月)



(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

7月の生産指数を業種別にみると、増産となったのは自動車工業(前月比+38.4%)、食料品・たばこ工業(同+6.2%)、その他工業(同+9.0%)等であった。一方、減産となったのは、生産用機械工業(同-4.6%)、輸送機械工業(除、自動車工業)(同-5.0%)、石油・石炭製品工業(同-4.5%)であった。

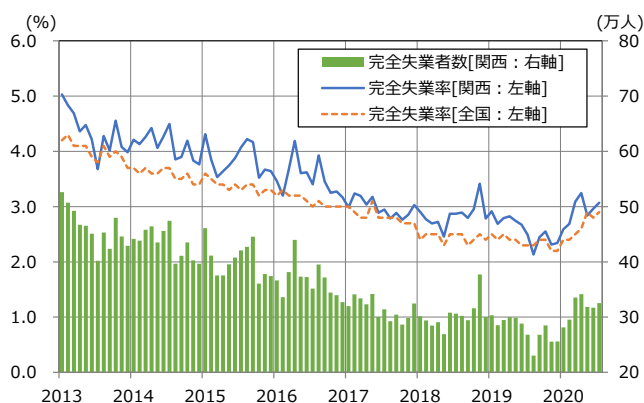
なお、製造工業生産予測調査(速報値ベース)によると、8月は前月比+4.0%、9月は同+1.9%といずれも増産が予測されている。

(2) 完全失業者と就業者の動向

関西 7月の完全失業率(季節調整値：APIR 推計)は 3.1%と前月比+0.1%ポイント小幅上昇し、2 カ月連続の悪化。

また、完全失業者数(季節調整値：APIR 推計)は 33 万人で前月差+0.8 万人と 3 カ月ぶりの増加。労働力人口(季節調整値：APIR 推計)は同-11 万人、就業者数(季節調整値：APIR 推計)は同-10 万人と、いずれも 3 カ月ぶりの減少。企業業績の悪化を受け、解雇や雇い止めが増加した。一方、非労働力人口は同+12 万人と 3 カ月ぶりに増加した。新型コロナウイルス感染再拡大を受け、職探しを控える動きもみられた。

完全失業率の推移(2013 年 1 月～20 年 7 月)



(出所)総務省「労働力調査」

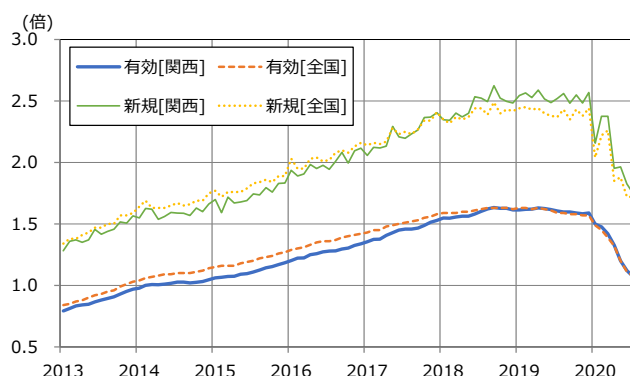
全国 7 月の完全失業率(季節調整値)は 2.9%と前月比+0.1%ポイント小幅上昇し、2 カ月ぶりの悪化。完全失業者数(季節調整値)は 196 万人で前月差+2 万人と 2 カ月ぶりの増加であった。労働力人口は前月差+16 万人で 3 カ月連

続の増加。就業者数は同+11 万人とこちらも 3 カ月連続の増加であった。5 月以降労働力人口が増加しており、非労働力化した人が職探しのため、徐々に労働市場に戻ってきているようである。

(3) 求人倍率の動向

関西 7 月の有効求人倍率(季節調整値、受理地別)は、1.07 倍で前月比-0.05 ポイントと 7 カ月連続で悪化し、2015 年 4 月(1.07 倍)以来の低水準。有効求人数は同+2.4%で 7 カ月ぶりの増加。有効求職者数は同+7.1%で 3 カ月連続の増加。有効求職者数の伸びが有効求人数の伸びを上回ったことによる。

求人倍率(受理地別)の推移(2013 年 1 月～20 年 7 月)



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」(下の表も同様)

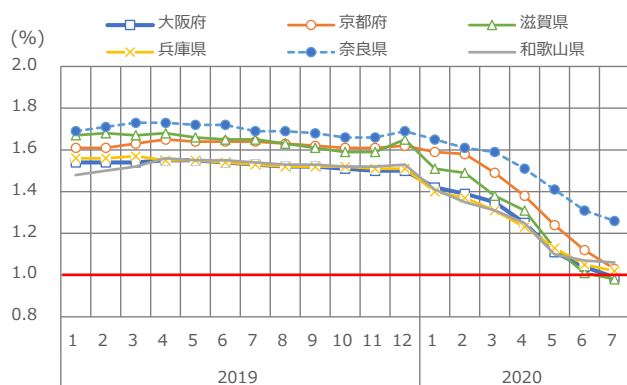
関西 2 府 4 県の有効求人倍率(2020 年 6 月～7 月)

	全国	関西	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
6月	1.11	1.12	0.83	1.13	1.23	1.01	1.16	1.00
7月	1.08	1.07	0.81	1.04	1.17	0.98	1.11	1.00
前月差	▲0.03	▲0.05	▲0.02	▲0.09	▲0.06	▲0.03	▲0.05	0.00

7 月の有効求人倍率(受理地別)を府県別に高い順から見ると、大阪府は 1.17 倍(前月比-0.06 ポイント)、奈良県は 1.11 倍(同-0.05 ポイント)、京都府は 1.04 倍(同-0.09 ポイント)、和歌山県は 1.00 倍(同横ばい)、兵庫県は 0.98 倍(同-0.03 ポイント)、滋賀県は 0.81 倍(同-0.02 ポイント)となった。和歌山県を除く 5 府県はいずれも 7 カ月連続で悪化している。うち、京都府は宿泊・飲食、小売業などの求人数減少もあり、下げ幅は全国で最大となり、兵庫県は 2015 年 8 月(0.99)以来の低水準となった。また、企業の中には本社所在

地の府県で一括して求人を出しているケースがあり、工場が多い府県では実態よりも求人倍率が低くなる傾向がある。そのため、就業地別の有効求人倍率でも確認したところ、滋賀県では0.98倍、大阪府では0.99倍と1倍を下回っていた。それぞれ、2013年8月(0.97倍)、14年10月(0.99倍)以来の低水準である。

有効求人倍率(就業地別)の推移(2019年1月～20年7月)



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」

関西7月の新規求人倍率は1.75倍で前月比-0.08ポイントと2カ月連続の悪化。新規求人数(同-8.9%、3カ月ぶり)、新規求職者数(同-4.7%、3カ月ぶり)ともに減少した。企業業績の悪化を受けた求人意欲の低下と、新型コロナウイルス感染再拡大による外出手控えが影響しているとみられる。

7月の新規求人数を産業別にみると、全ての産業で減少した。前年比の産業別寄与度を減少幅が大きかった順にみれば、医療・福祉業(-5.7%ポイント)、卸・小売業(-5.0%ポイント)、その他サービス業(-4.0%ポイント)、製造業(-3.9%ポイント)、宿泊・飲食サービス業(-3.5%ポイント)等であった。

全国7月の有効求人倍率(季節調整値)は1.08倍で前月比-0.03ポイント低下し7カ月連続の悪化。2014年4月(1.08倍)以来の低水準となった。一方、新規求人倍率は1.72倍で同横ばいであった。

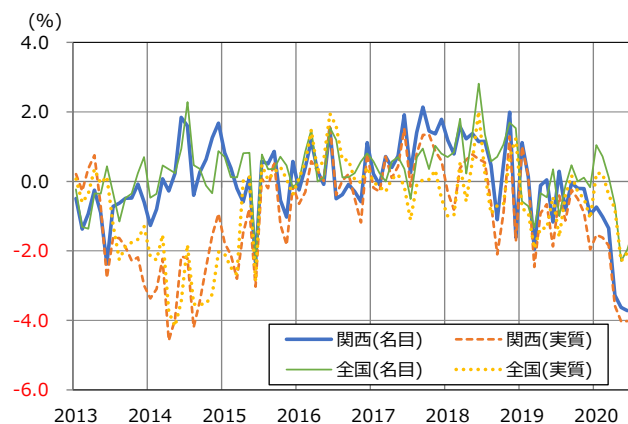
(4) 現金給与総額

関西2府4県の6月の現金給与総額(APIR推計)は42万1,365円で前年同月比-3.7%となり、11カ月連続の減少。

府県別では、滋賀県は同-13.7%(6カ月連続)、京都府は同-4.6%(7カ月連続)、大阪府は同-3.7%(16カ月連続)、和歌山県は同-3.7%(5カ月連続)、兵庫県は同-0.8%(6カ月連続)、奈良県は同-0.6%(11カ月ぶり)といずれも減少した。中でも、2桁の大幅な減少であった滋賀県では、所定外労働時間指数が同-42.9%と大幅に低下した。その他の府県を見ても、大阪府では同-28.4%、兵庫県では同-25.8%、京都府では同-21.1%、奈良県では同-20.3%、和歌山県では同-12.5%となっている。就業時間調整やテレワークの推進などにより、所定外労働時間は減少傾向にある。京都・大阪・兵庫の加重平均をとった6月の「関西コア」賃金指数(APIR推計)は同-3.0%と11カ月連続の減少であった。

また、関西2府4県の現金給与総額から物価変動の影響(持家の帰属家賃を除く総合)を除いた6月の実質現金給与総額(実質賃金)は前年同月比-4.0%と16カ月連続の減少であった。所得環境は悪化が続いている。

現金給与総額の推移(前年同月比: 2013年1月～20年7月)



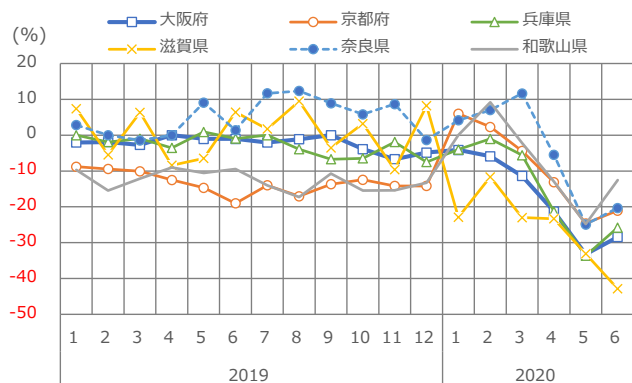
(注) 関西・関西コア(京都、大阪、兵庫)はAPIR推計値。現金給与総額を当該常用労働者数(2011年平均)で加重平均。

(出所) 厚生労働省「毎月勤労統計調査」、総務省「消費者物価指数」より作成。

全国7月の現金給与総額(速報値)は、前年同月比-1.3%と4カ月連続で減少した。内訳をみると、所定内給与は同+0.3%で2カ月連続の改善。一方、所定外給与は同-16.6%と11カ月連続で減少した。比較可能な2013年以降で5月(同-26.3%)、6月(同-24.5%)に次ぐ、3番目の落ち込みで

あった。特別に支払われた給与は同-2.4%と3カ月連続の減少。また、現金給与総額から物価上昇分(持家の帰属家賃を除く総合)を除いた実質現金給与総額(実質賃金)は同-1.6%と5カ月連続で減少した。

所定外労働時間指数の推移(前年同月比: 2019年1月~2020年6月)



(出所) 関西2府4県の自治体の公表資料より作成。

【内需関連】

(1) 大型小売店販売額

関西7月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース)は3,047億円で、前年同月比-7.8%と前月(同-7.8%)から横ばいとなり、10カ月連続の減少。新型コロナウイルスの感染再拡大による外出自粛、長雨の天候不順などの影響によって、消費の回復は足踏みしている。

うち、百貨店は前年同月比-19.3%と、前月(同-19.9%)とほぼ横ばいとなり、10カ月連続の減少となった。外出自粛及び天候不順に加え、催事縮小やインバウンド需要の消滅による影響が続いている。なお、8月の関西百貨店免税売上高(日銀大阪支店)は前年同月比-86.3%、件数は同-96.8%といずれも7カ月連続で大幅下落した。減少幅は前月(売上高:-88.0%、件数:-96.9%)より幾分縮小したものの、インバウンド需要の回復が見込めないため、今後も百貨店免税売上高の低調は続く。

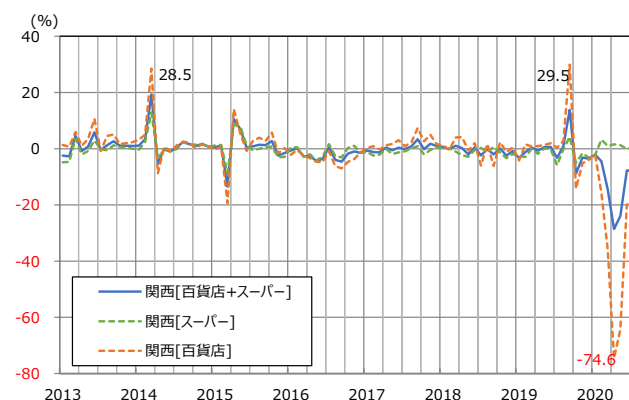
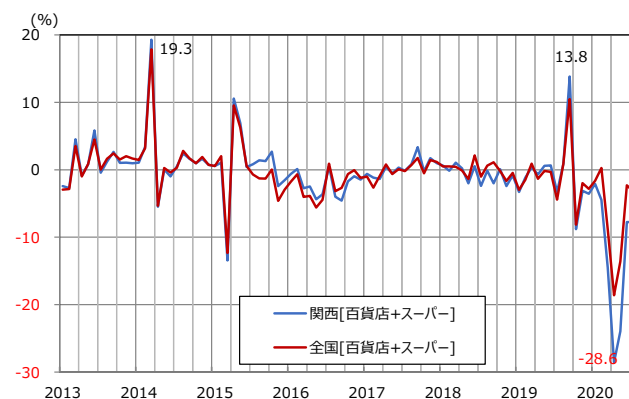
一方、スーパーは前年同月比+0.6%と2カ月ぶりの増加。衣料品(同-28.8%、前月:同-17.4%)の伸びのマイナス幅は拡大し、家具・家電・家庭用品(同-4.5%、前月:同+0.3%)

(は減少に転じたが、飲食料品(同+5.2%、前月:同+3.5%)は上昇した。

全国7月の大型小売店販売額(全店ベース)は1兆6,918億円で、前年同月比-3.2%と5カ月連続の減少となった。うち、百貨店は同-19.8%減少(10カ月連続)したが、スーパーは同+4.5%増加(6カ月連続)した。いずれも前月の伸び(百貨店同-18.5%、スーパー同+4.8%)からほぼ横ばい。

なお、小売業販売額指数(季節調整済)の前月比は-3.3%と3カ月ぶりに低下。一方、前月比の3カ月後方移動平均は+3.9%と2カ月連続で上昇した。これらを踏まえ、経済産業省は小売業の基調判断を「緩やかに持ち直しているものの、一部に弱さがみられる」と前月から下方修正した。

大型小売店販売額の推移(前年同月比:2013年1月~2020年7月)



(注) 福井県を含む。(出所) 経済産業省「商業動態統計」

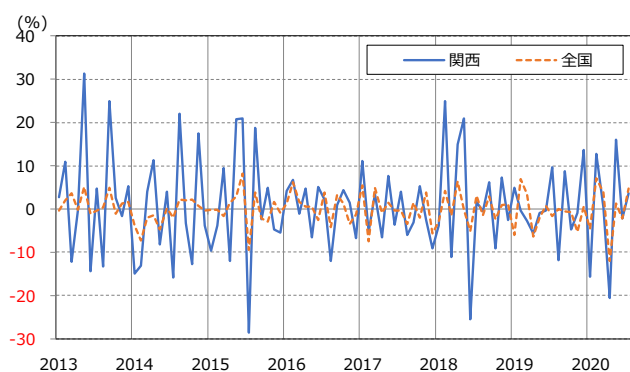
(2) 新設住宅着工の動向

関西7月の新設住宅着工戸数(原数値)は11,782戸となり、前年同月比-8.3%と4カ月連続の減少。また、季節調整

値(APIR 推計)は11,070戸で前月比+3.6%と2カ月ぶりの増加。利用関係別に見ると、持家は2,650戸で同-2.6%と2カ月ぶりに減少したが、貸家は4,898戸で同+15.4%と3カ月連続で、分譲は3,658戸で同+10.5%と2カ月ぶりに増加した。うち、マンションは1,971戸で同+31.4%と2カ月ぶりに大幅に増加した。貸家と分譲マンションの増加が全体を押し上げた。

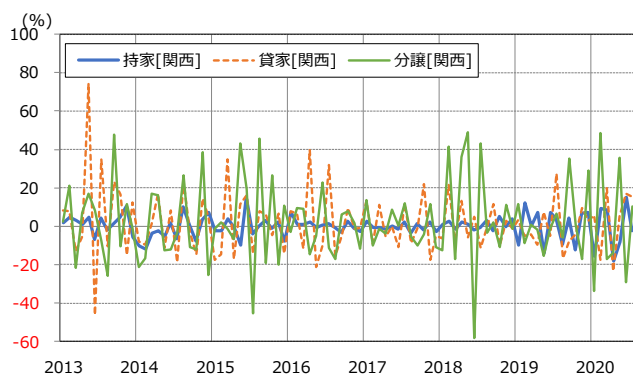
全国7月の新設住宅着工戸数(原数値)は70,232戸となり、前年同月比-11.4%と13カ月連続の減少となった。また、季節調整値では68,962戸となり、前月比+4.8%と2カ月ぶりの増加。利用関係別に見ると、持家は21,276戸(同+0.5%)と2カ月連続で、貸家は26,872戸(同+8.2%)と2カ月ぶりに、分譲は20,333戸(同+5.8%)と4カ月ぶりに、いずれも増加した。

新設住宅着工戸数の推移(季節調整値 前月比: 13年1月~20年7月)



(出所) 国土交通省「建築着工統計」

利用関係別の推移(季節調整値 前月比: 2013年1月~2020年7月)



(出所) 国土交通省「建築着工統計」

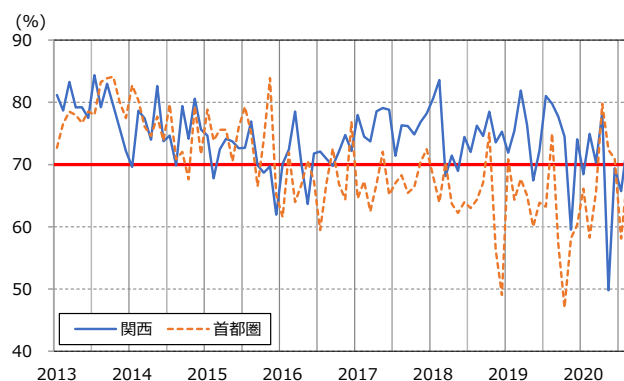
(3) マンション市場動向

関西 8月のマンション契約率(売却戸数/発売戸数)は73.5%(季節調整値: APIR 推計)と、前月比+7.8%ポイントと2カ月ぶりの上昇。好不況の境目(70%)を4カ月ぶりに上回った。契約率を府県別にみると(以下、原数値)、大阪市内(90.9%)、神戸市内(89.0%)、京都市内(83.1%)が高水準となったが、兵庫県下(63.3%)、大阪府下(56.5%)、奈良県(48.6%)などは低水準であった。

また、マンションの新規発売戸数は1,617戸(前年同月比+20.6%)で、伸びは前月(同-48.5%)からプラスに転じ、大幅に増加した。

同月の首都圏のマンション契約率は68.1%(季節調整値: APIR 推計)で、前月比+10.0%ポイントと4カ月ぶりに上昇したが、好不況の境目(70%)を2カ月連続で下回った。新規発売戸数は1,669戸(前年同月比-8.2%)となり、伸び率は前月(同+7.8%)からマイナスに転じた。

関西・首都圏のマンション契約率の推移(2013年1月~2020年8月)



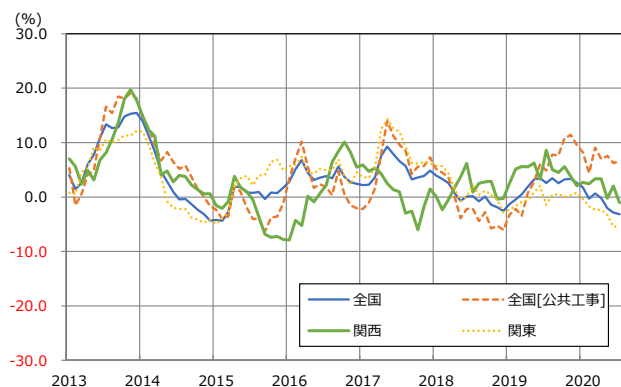
(出所) 不動産経済研究所「マンション市場動向」

(4) 建設工事

関西 7月の建設工事出来高は5,239億円で前年同月比-1.0%と2カ月ぶりの減少となった。関東は1兆3,996億円で同-5.3%と7カ月連続で減少した。

全国7月の建設工事出来高は4兆8億円、前年同月比-3.2%と4カ月連続の減少。うち、公共工事は1兆5,940億円、同+6.6%と16カ月連続の増加だが、民間工事は2兆4,067億円、同-8.7%と11カ月連続の減少となった。

建設工事出来高の推移(前年同月比: 2013年1月~20年7月)



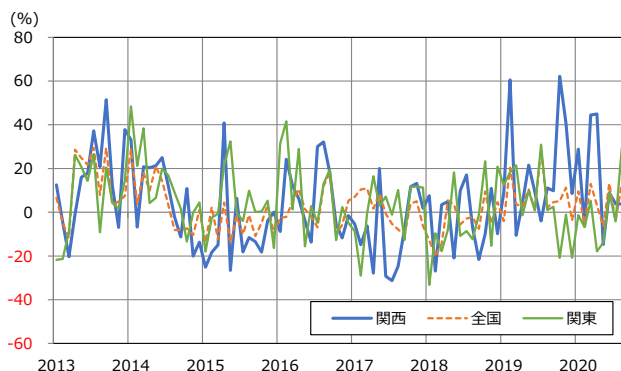
(注) 2020年4月分より遡及改訂された値を反映している

(出所)国土交通省「建設総合統計」

(5) 公共工事請負金額

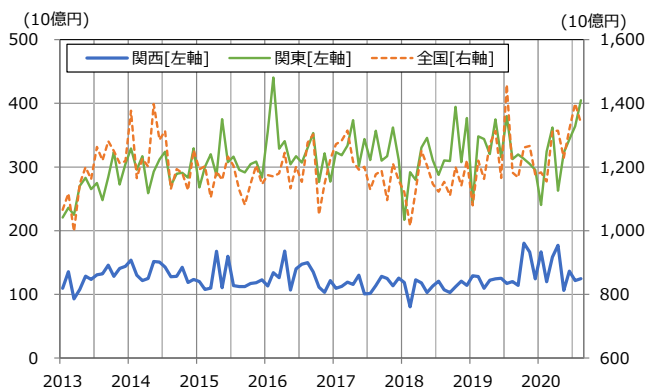
関西 8 月の公共工事請負金額は 1,099 億円、前年同月比 +3.7%と 3 カ月連続の増加。季節調整値(APIR 推計)でみると前月比+2.6%と 2 カ月ぶりの増加となった。

公共工事請負金額の推移(前年同月比: 2013年1月~20年8月)



(出所)東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

公共工事請負金額(季調値)の推移(2013年1月~20年8月)



(出所)東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

関東は 3,846 億円、前年同月比+29.5%と 2 カ月ぶりの増加。全国は 1 兆 3,009 億円、同+13.2%と 2 カ月ぶりの増加となった。季節調整値(APIR 推計)で見ると、関東は前月比+11.2%と 4 カ月連続の増加、全国は同-4.4%と 3 カ月ぶりの減少となった。

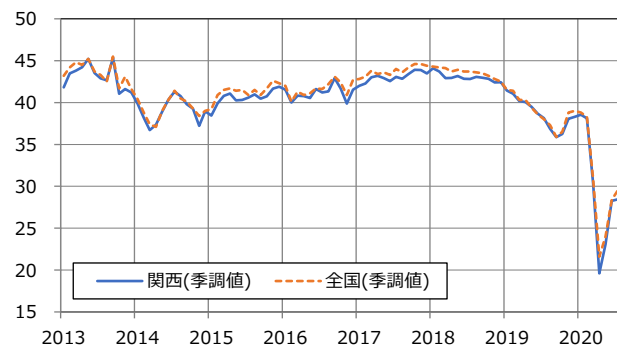
【センチメント】

(1) 消費者態度指数の動向

関西 8 月の消費者態度指数(季節調整値: APIR 推計)は前月比+0.3 ポイント上昇し 28.8。4 カ月連続の改善だが、この 2 カ月は緩やかな回復にとどまっている(前月:同+0.2 ポイント)。

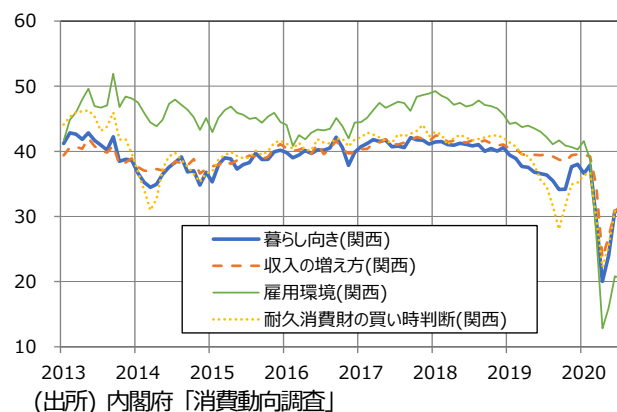
指数構成項目の内訳をみると、暮らし向き指数(31.4)は前月比+0.5 ポイントと 4 カ月連続、耐久消費財の買い時判断指数(31.3)は同+0.5 ポイントと 2 カ月ぶり、雇用環境指数(20.7)は同+0.1 ポイントと 2 カ月ぶり、いずれも改善した。一方、収入の増え方指数(31.7)は同横ばいだった。

消費者態度指数の推移(2013年1月~20年8月)



(出所) 内閣府「消費動向調査」

消費者態度指数構成項目の推移(2013年1月~20年8月)



(出所) 内閣府「消費動向調査」

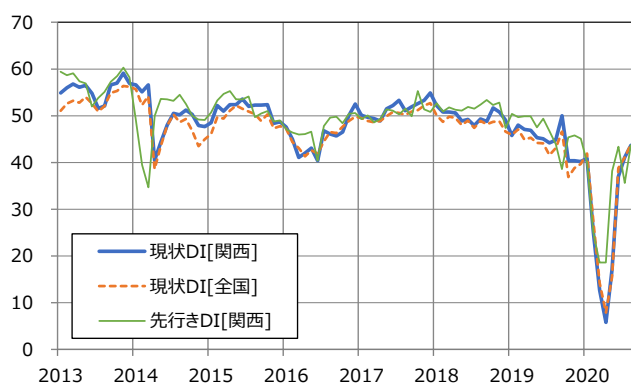
全国(季節調整値)は29.3で前月比-0.2ポイント小幅低下し、4カ月ぶりの悪化。新型コロナウイルスの感染再拡大の影響が再びあらわれたようである。

指数構成項目の内訳をみると、収入の増え方指数(32.7)は前月比-0.1ポイント、暮らし向き指数(31.4)は同-0.3ポイント、雇用環境指数(21.2)は同-0.5ポイントと、いずれも4カ月ぶりに低下。一方、耐久消費財の買い時判断指数(32.0)は同+0.4ポイントと4カ月連続で改善した。結果、内閣府は基調判断を前月の「依然として厳しいものの、持ち直しの動きが続いている。」から「持ち直しのテンポが緩やかになっている」と下方修正した。

(2) 景気ウォッチャー指数の動向

関西8月の景気ウォッチャー現状判断DI(季節調整値)は43.7と前月比+2.6ポイント上昇し4カ月連続の改善。全国の同指数は43.9と同+2.8ポイント上昇し4カ月連続で改善した(調査期間:8/25~31)。関西、全国とも新型コロナウイルス感染再拡大のペースが鈍化したこともあり、特に百貨店などの小売業や旅行関連業など一部の業種において改善がみられたようである。

景気ウォッチャー調査の推移(2013年1月~2020年8月)



(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

先行き判断DI(季節調整値)は、関西で43.7と前月比+8.1ポイント上昇し2カ月ぶりに改善。全国の前月比は42.4と同+6.4ポイント上昇し2カ月ぶりに改善した。秋から冬にかけて新型コロナウイルスの感染再拡大が懸念されている

ものの、小売業などで巣籠り消費が再び増加するとの見方が影響したようである。

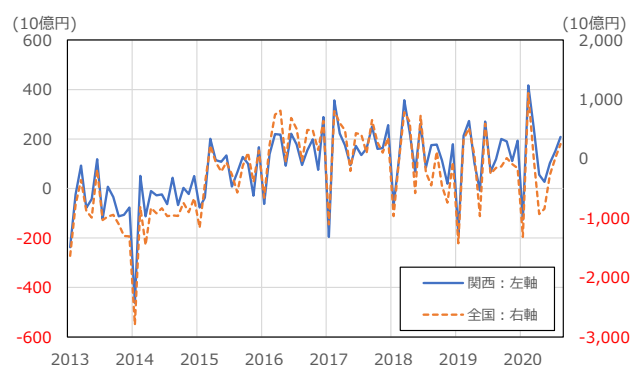
【外需関連】

(1) 貿易概況

財務省「貿易概況(速報値)」によれば、関西8月の貿易収支は+2,082億円と7カ月連続の黒字。黒字幅は前年同月比75.9%拡大した。輸出入ともに前年比減少となった。輸出入の合計である貿易総額は前年同月比-12.6%と11カ月連続で減少し、昨年9月を除けば、2018年12月から20カ月連続で縮小している。

全国8月の貿易収支は+2,483億円と2カ月連続の黒字となった。収支は前年同月差4,005億円改善した。輸出入ともに依然として前年比大幅減少が続いており、貿易総額は前年同月比-17.8%と16カ月連続で縮小している。

関西・全国の貿易収支の推移(2013年1月~2020年8月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料:近畿圏」

(2) 輸出

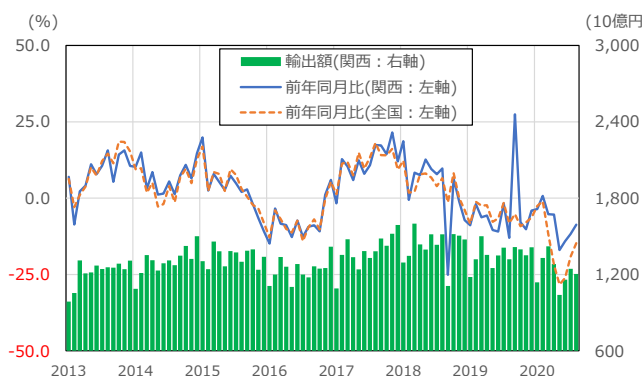
関西8月の輸出額(速報値)は1兆2,049億円で前年同月比-8.7%と6カ月連続の減少。財別にみれば、主に鉱物性燃料、鉄鋼等が減少した。

日銀の実質輸出入によれば、8月の実質輸出(速報値)は104.5(季節調整値、2015年平均=100)で前月比+2.8%となり、3カ月連続のプラスとなった。

全国8月の輸出額(速報値)は5兆2,327億円で、前年同月比-14.8%と21カ月連続の減少。財別にみれば、主に自

動車、鉱物性燃料、船舶等が減少した。

関西・全国の輸出の推移(2013年1月～20年8月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

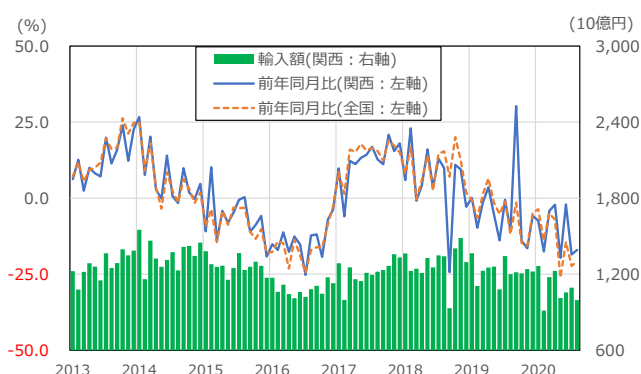
(3) 輸入

関西8月の輸入額(速報値)は9,967億円で、前年同月比-17.0%減少し、11カ月連続のマイナス。財別にみれば、主に原油及び粗油、衣類及び同附属品等が減少した。

日銀の実質輸出入によれば、8月の実質輸入(速報値)は95.1(季節調整値、2015年平均=100)で前月比+0.1%。4カ月ぶりのプラスだが、伸びは小幅にとどまった。

全国8月の輸入額(速報値)は4兆9,844億円で、前年同月比-20.8%と16カ月連続の減少であった。財別にみれば、原油、液化天然ガス、石炭等が減少した。

関西・全国の輸入の推移(2013年1月～20年8月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

(4) 地域別貿易

関西8月の貿易収支を地域別にみると、対アジア(含中国)の貿易収支は+2,874億円と7カ月連続の黒字となった。輸

出額(8,604億円)は前年同月比-1.6%と6カ月連続のマイナスとなった。財別にみれば、鉄鋼、鉱物性燃料等が減少した。また、輸入額(5,730億円)は同-12.3%と2カ月連続のマイナスとなった。財別にみると、衣類及び同附属品、がん具及び遊戯用具等が減少した。

対中貿易収支は+365億円と6カ月ぶりの黒字となった。輸出額(3,499億円)は前年同月比+7.1%と3カ月連続のプラスとなった。財別にみると、主に半導体等製造装置、半導体等電子部品等が増加した。輸入額(3,134億円)は同-10.1%で2カ月連続のマイナス。財別にみると、衣類及び同附属品、がん具及び遊戯用具等が減少した。

対米貿易収支は+553億円の黒字となった。輸出額(1,426億円)は前年同月比-22.1%と6カ月連続のマイナス。財別にみれば、建設用・鉱山用機械、医薬品等が減少した。輸入額(873億円)は同-33.9%と2カ月連続のマイナス。財別にみれば、医薬品、原油及び粗油等が減少した。

対EU(英国を除く27カ国ベース)貿易収支は-286億円と4カ月連続の赤字。輸出額(1,049億円)は前年同月比-22.9%と11カ月連続のマイナス。財別にみれば、遊戯用具、原動機等が減少した。輸入額(1,335億円)は同+1.0%と2カ月連続のプラス。財別にみれば、たばこ、医薬品等が増加した。

対中輸出は3カ月連続の前年比プラスだが、対米輸出は5カ月連続、対EU輸出は4カ月連続で2桁のマイナスが続いており、世界輸出市場は中国を除けば非常に弱い。

(5) 訪日外客数

8月の関西への外国人入国者数は、1,615人と前年同月比-99.8%減少した。在留資格をもつ外国人に対する再入国の条件が一部緩和されたこともあり、前月(834人)から幾分増加したものの、低水準が続いている。なお、9月以降、在留資格をもつ外国人の再入国が全面的に緩和されることもあり、幾分入国者の増加が見込まれよう。外国人出国者数は4,661人で同-99.3%と7カ月連続の減少。結果、外国人出

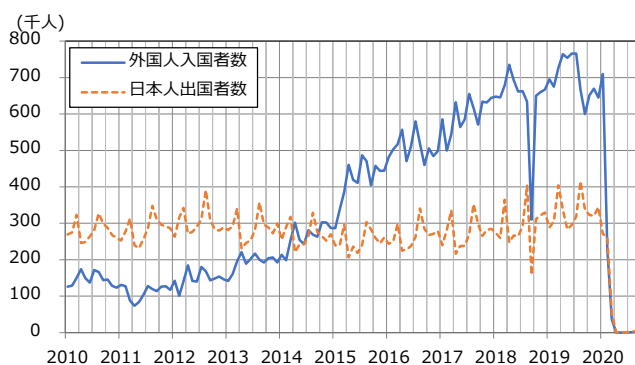
入国者数は 6,276 人で同-99.5%と 7 カ月連続の減少となった。

日本人出国者数は 3,858 人で前年同月比-99.1%と 8 カ月連続で減少した。

地域別にみれば、6 月の関空訪日外客数を国籍別・地域別にみると、総数は 577 人と前月(182 人)から幾分増加した。うち、中国からの入国者が 212 人(前年同月比-99.9%)と最多であった。次いで、韓国が 147 人(同-99.9%)、フィリピンが 76 人(同-99.5%)、であった。6 月中旬にフィリピン航空などの一部国際線の運航が再開されたことが影響したようである。伸び率をみると、中国は 5 カ月連続、韓国は 25 カ月連続、フィリピンは 4 カ月連続といずれも減少した。

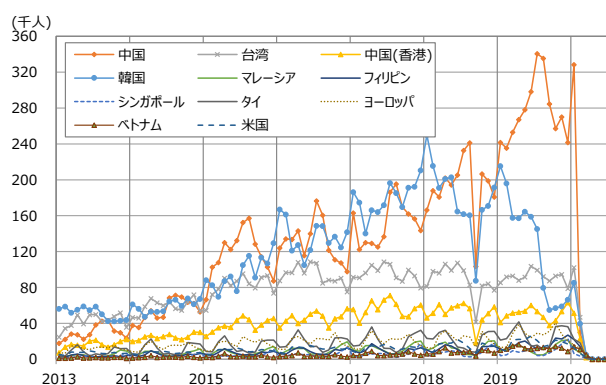
上記以外の各国をみれば、台湾が 48 人(前年同月比-100.0%)、インドネシアが 34 人(同-99.7%)等であった。なお、香港、ベトナムからの入国者は 0 人であった。

訪日外客数と出国日本人数の推移(2013 年 1 月～20 年 8 月)



(出所) 法務省「出入国管理統計」

地域別訪日外客数(2013 年 1 月～20 年 6 月まで)



(出所) 法務省「出入国管理統計」

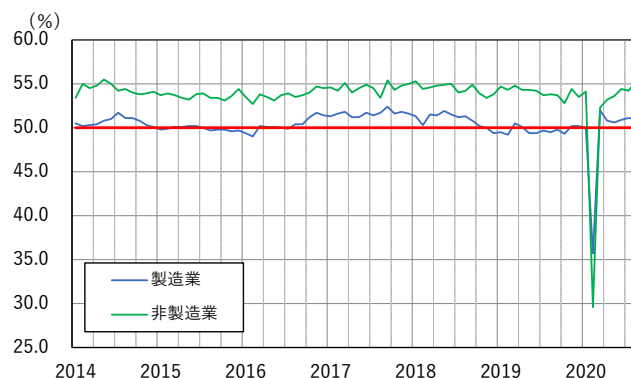
【中国景気モニター】

(1) センチメント

8 月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は 51.0%となり、前月から-0.1%ポイント小幅下落した。3 カ月ぶりの悪化だが、6 カ月連続で景気分岐点(50)を上回った。一方、非製造業 PMI は 55.2%となり、同+1.0%ポイント上昇し、2 カ月ぶりの改善であった。

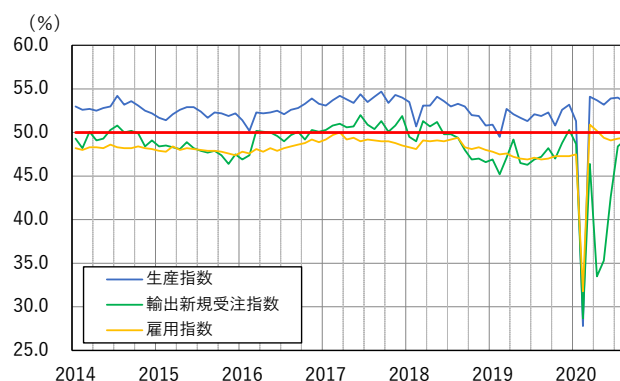
製造業 PMI のうち、生産指数は 53.5%と前月から-0.5%ポイント下落し、3 カ月ぶりの悪化。輸出新規受注指数は 49.1%と同+0.7%ポイント上昇した。4 カ月連続の改善だが、8 カ月連続で景気分岐点を下回った。雇用指数は 49.4%と同+0.1%ポイント小幅上昇し、2 カ月連続の改善となった。

業種別購買担当者景況指数(PMI : 2014 年 1 月～20 年 8 月)



(出所)中国国家统计局 ; CEIC データベース

製造業購買担当者景況指数(PMI : 2014 年 1 月～20 年 8 月)

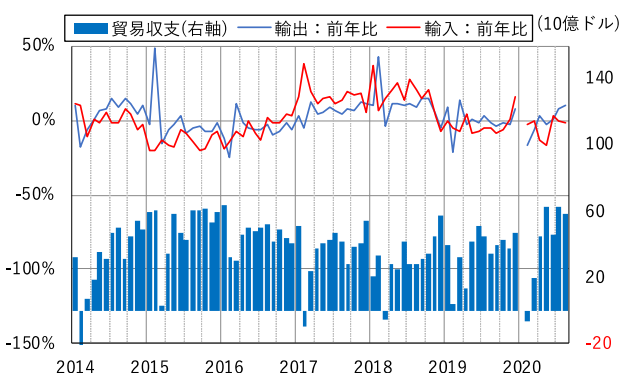


(出所)中国国家统计局 ; CEIC データベース

(2) 貿易動向

8月の貿易収支は+589.3億ドルで6カ月連続の黒字となった。輸出額(速報値)は2,352.6億ドルで前年同月比+9.5%と3カ月連続の増加。一方、輸入額は1,763.3億ドルで同-2.0%と2カ月連続の減少。輸出の増加もあり、貿易総額(輸出+輸入)は同+4.3%と3カ月連続で拡大した。

中国の貿易動向(ドル・ベース：2014年1月～20年8月)



(出所)中国税関; CEIC データベース, APIR 推計

[地域別貿易状況]

地域別にみると、8月の対日貿易収支は-25.9億ドル(前月：-35.0億ドル)で、3カ月連続の赤字となった。対日輸出額は116.5億ドルとなり、前年同月比-0.8%と3カ月連続の減少。対日輸入額は142.4億ドルとなり、同-0.9%と3カ月ぶりの減少であった。

対韓貿易収支は-54.2億ドル(前月：-54.9億ドル)の赤字となった。対韓輸出額は89.5億ドルで前年同月比+6.0%と2カ月連続の増加。一方、対韓輸入額は143.7億ドルとなり、同-0.8%と3カ月ぶりの減少であった。

対ASEAN貿易収支は79.9億ドル(前月：106.5億ドル)の黒字となった。対ASEAN輸出額は338.7億ドルで前年同月比+12.9%と3カ月連続の増加。対ASEAN輸入額は258.8億ドルとなり、同+1.6%と3カ月連続の増加であった。

対米貿易収支は342.4億ドル(前月：324.6億ドル)の黒字となり、黒字幅は2カ月連続で拡大した(前年同月比

+27.0%)。対米輸出額は447.7億ドルで同+20.0%と3カ月連続の増加。また、対米輸入額は105.3億ドルで、同+1.8%と3カ月連続の増加であった。

対EU貿易収支は132.4億ドル(前月：153.4億ドル)の黒字となった。対EU輸出額は357.2億ドルで前年同月比-6.5%と8カ月連続の減少。また、対EU輸入額は224.8億ドルとなり、同-4.6%と8カ月連続で減少した。

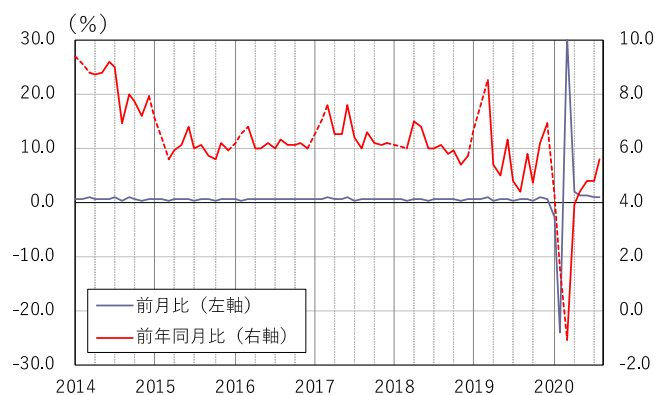
貿易シェア上位のASEAN(1位)、EU(2位)と米国(3位)の貿易総額をみると、ASEANや米国は3カ月連続で拡大し、EUは8カ月連続で縮小した。

(3) 工業生産

8月の工業生産は前月比+1.02%上昇し、伸びは前月から+0.04%ポイント加速した。また、前年同月比+5.6%上昇し、前月から+0.8%ポイント加速した。4月に前年比プラスに転じて以降、5カ月連続で生産は拡大している。

産業別に見ると、電気機械・機材製造業(前年同月比+15.1%)、自動車製造業(同+14.8%)、通用設備製造業(同+10.9%)などが高い伸びを示した。一方、医薬製造業(同+4.3%)、繊維工業(同+3.3%)、食品製造業(同+0.5%)などは比較的低い伸びにとどまった。また、農業副食品加工業(同-2.5%)と鉄道・輸送機器製造業(同-0.3%)は、いずれも減産となった。

工業生産指数(2014年1月～20年8月)



(注)各年の1-2月は統計が未公表のため線形補間を行っている

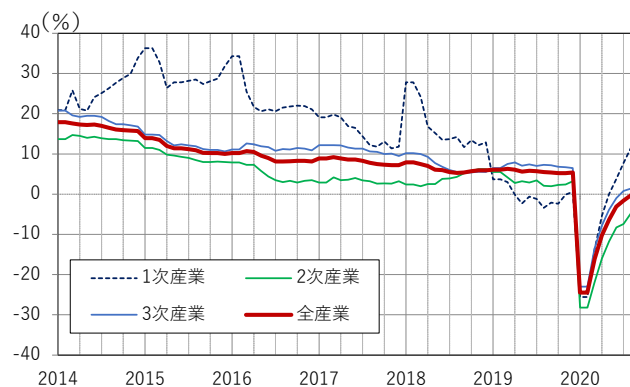
(出所)中国国家统计局; CEIC データベース

(4) 固定資産投資

1-8月期の累積固定資産投資(名目)は前年比-0.3%となり、1-7月期(同-1.6%)から減少幅は1.3%ポイント縮小したが、8カ月連続のマイナスであった。

産業別にみると、第1次産業は前年比+11.5%増加し、伸びは前月(同+7.7%)から3.8%ポイント加速した。第2次産業は同-4.8%と減少したが、マイナス幅は前月(同-7.4%)から2.6%ポイント縮小した。第3次産業は同+1.4%増加し、伸びは前月(同+0.8%)から0.6%ポイント幾分か加速した。

固定資産投資(産業別)累積伸び率(2014年1月~20年8月)



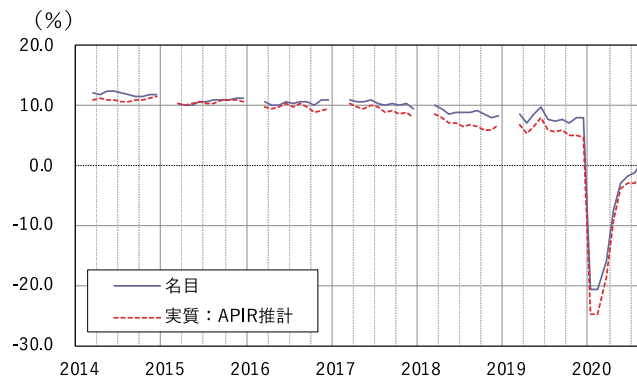
(出所)中国国家统计局; CEIC データベース

(5) 消費

8月の社会消費品小売総額(名目)は3.36兆元と前年同月比+0.5%と8カ月ぶりにプラスに転じた。一方、社会消費品小売総額の実質値(APIR推計)をみると、同-1.1%と8カ月連続のマイナスだが、マイナス幅は前月(同-2.8%)から縮小した。

その中でも、電子商取引の社会消費品小売総額は9,540.9億円で、前年同月比+13.3%と6カ月連続のプラス。4カ月連続で2桁の伸びとなった。なお、電子商取引が社会消費品小売総額全体に占めるシェアは28.4%となり、前年同月から+3.6%ポイント上昇した。

社会消費品小売総額(2014年1月~20年8月)



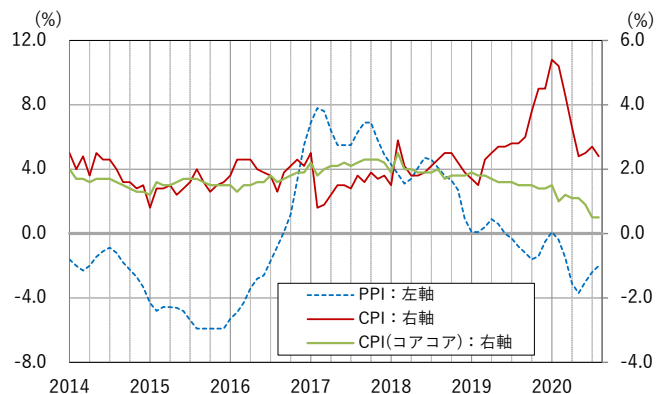
(出所)中国国家统计局; CEIC データベース

(6) 物価水準

8月の消費者物価指数(CPI)は前年同月比+2.4%で、前月から-0.3%ポイントと3カ月ぶりに下落した。一方、食料・エネルギーを除く消費者物価コアコア指数は同+0.5%上昇し、伸びは前月と横ばいであった。

また、生産者物価指数(PPI)は、前年同月比-2.0%と7カ月連続の下落だが、下落幅は前月(同-2.4%)から0.4%ポイント幾分か縮小した。

消費者物価指数・生産者物価指数(2014年1月~20年8月)



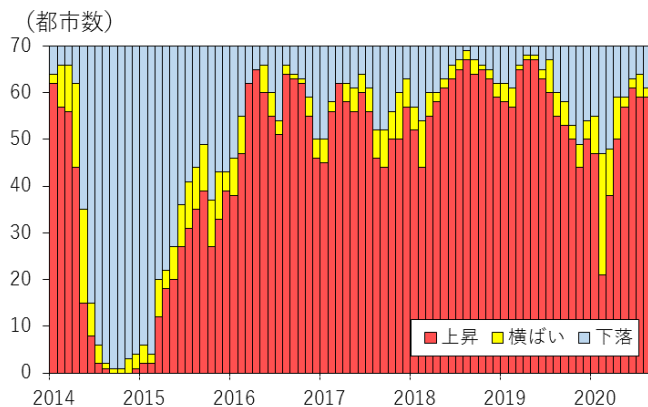
(出所)中国国家统计局; CEIC データベース

(7) 不動産市場

8月の不動産市場は、前月とほぼ同水準であった。不動産価格(新築住宅価格)をみると、中国主要70都市のうち、住宅価格が上昇した都市数は59で前月から横ばい。一方、下

落した都市数は9で前月から3都市増加(6カ月ぶり)。また、横ばいの都市数は2で前月から3都市減少した(3カ月ぶり)。

新築住宅価格の主要都市集計(2014年1月~2020年8月)



(出所)中国国家统计局; CEIC データベース

(8) 今月の中国経済レビュー

8月の中国経済の動向をレビューすれば、世界に先駆けて経済が再開し、そのため景気の回復が続いている。

社会消費品小売(名目)総額は、20年1月以降で初めて伸びは前年比プラスに転じた。とりわけ、自動車、通信機材、日用品、化粧品などの品目がプラスに寄与した。消費は着実に回復している。

輸出額は3カ月連続で前年比増加、また輸出新規受注指数も4カ月連続で上昇しており、外需の底打ちが鮮明となっている。なお、足下では経済回復に伴い、6月以降為替レートは人民元高が進んでいる。

一方、固定資産投資は前年比減少幅が縮小したものの、依然として伸びはマイナスの領域にとどまっている。投資にはCOVID-19の影響が未だ残っている。

中国経済は早期にCOVID-19の感染拡大を封じ込めたことにより、回復基調が続くものの、感染の再拡大が世界的に懸念されるため、先行きには引き続き注視が必要である。

Contact : 木下祐輔・野村亮輔

Tel. 06-6485-7694

E-mail. contact@apir.or.jp

【主要月次統計】

月次統計	19/9M	19/10M	19/11M	19/12M	20/1M	20/2M	20/3M	20/4M	20/5M	20/6M	20/7M	20/8M
生産												
[関西]鉱工業生産(季節調整値、15年=100)	102.9	95.8	93.8	95.2	99.7	99.0	97.9	88.6	80.7	83.1	88.6	UN
[関西]鉱工業生産(季節調整値、前月比)	1.3	-6.9	-2.1	1.5	4.7	-0.7	-1.1	-9.5	-8.9	3.0	6.6	UN
[関西]〃出荷指数(季節調整値、15年=100)	104.6	98.1	96.2	97.4	96.7	100.4	98.2	87.0	77.6	83.1	88.9	UN
[関西]〃出荷指数(季節調整値、前月比)	4.4	-6.2	-1.9	1.2	-0.7	3.8	-2.2	-11.4	-10.8	7.1	7.0	UN
[関西]〃在庫指数(季節調整値、15年=100)	103.2	104.1	104.0	103.9	105.6	103.5	104.7	103.5	105.0	101.2	98.3	UN
[関西]〃在庫指数(季節調整値、前月比)	-0.5	0.9	-0.1	-0.1	1.6	-2.0	1.2	-1.1	1.4	-3.6	-2.9	UN
[全国]鉱工業生産(季節調整値、15年=100)	102.4	98.3	97.7	97.9	99.8	99.5	95.8	86.4	78.7	80.2	87.2	UN
[全国]鉱工業生産(季節調整値、前月比)	1.9	-4.0	-0.6	0.2	1.9	-0.3	-3.7	-9.8	-8.9	1.9	8.7	UN
[全国]〃出荷指数(季節調整値、15年=100)	101.8	98.2	96.8	97.0	97.9	98.9	93.2	84.3	76.8	80.5	85.8	UN
[全国]〃出荷指数(季節調整値、前月比)	1.8	-3.5	-1.4	0.2	0.9	1.0	-5.8	-9.5	-8.9	4.8	6.6	UN
[全国]〃在庫指数(季節調整値、15年=100)	103.3	104.1	103.6	104.0	106.2	104.4	106.4	106.1	103.3	100.8	99.3	UN
[全国]〃在庫指数(季節調整値、前月比)	-0.9	0.8	-0.5	0.4	2.1	-1.7	1.9	-0.3	-2.6	-2.4	-1.5	UN
労働												
[関西]完全失業率(季節調整値)	2.4	2.6	2.3	2.3	2.6	2.7	3.1	3.2	2.8	3.0	3.1	UN
[全国]完全失業率(季節調整値)	2.4	2.4	2.2	2.2	2.4	2.4	2.5	2.6	2.9	2.8	2.9	UN
[関西]有効求人倍率(季節調整値)	1.60	1.59	1.58	1.59	1.50	1.48	1.42	1.33	1.20	1.12	1.07	UN
[全国]有効求人倍率(季節調整値)	1.58	1.58	1.57	1.57	1.49	1.45	1.39	1.32	1.20	1.11	1.08	UN
[関西]新規求人倍率(季節調整値)	2.48	2.55	2.48	2.57	2.16	2.38	2.38	1.95	1.96	1.83	1.75	UN
[全国]新規求人倍率(季節調整値)	2.35	2.43	2.38	2.44	2.04	2.22	2.26	1.85	1.88	1.72	1.72	UN
[関西]現金給与総額(2府4県、前年同月比%)	-0.0	-0.2	-0.2	-1.0	-0.7	-1.0	-1.3	-3.3	-3.6	-3.7	UN	UN
[関西]現金給与総額(2府1県、前年同月比%)	-0.0	-0.2	-0.3	-1.2	-0.3	-1.1	-1.3	-3.5	-3.5	-3.0	UN	UN
[全国]現金給与総額(前年同月比%)	0.5	0.0	0.1	-0.2	1.0	0.7	0.1	-0.7	-2.3	-2.0	-1.3	UN
小売												
[関西]大型小売店販売額(10億円)	327	283	310.9	392.1	315.2	270.3	280.9	223.4	239.1	293.7	304.7	UN
[関西]大型小売店販売額(前年同月比、全店)	13.7	-8.9	-3.3	-3.7	-2.1	-4.5	-14.5	-28.6	-23.9	-4.8	-7.8	UN
[全国]大型小売店販売額(10億円)	1,672	1,458	1,610.8	2,022.8	1,606.4	1,438.7	1,621.9	1,345.0	1,452.9	1,677.6	1,691.8	UN
[全国]大型小売店販売額(前年同月比、全店)	10.4	-8.1	-2.0	-2.9	-1.6	0.3	-8.8	-18.6	-13.6	5.0	-3.2	UN
住宅・建設												
[関西]新設住宅着工(原数値、戸数)	11,852	11,314	11,212	12,043	9,758	10,978	11,646	10,030	10,131	10,982	11,782	UN
[関西]新設住宅着工(原数値、前年同月比%)	-5.5	-1.6	-9.1	6.0	-14.2	-2.9	0.2	-15.7	-1.2	-3.0	-8.3	UN
[全国]新設住宅着工(原数値、戸数)	77,915	77,123	73,523	72,174	60,341	63,105	70,729	69,162	63,682	71,101	70,232	UN
[全国]新設住宅着工(原数値、前年同月比%)	-4.9	-7.4	-12.7	-7.9	-10.1	-12.3	-7.6	-12.9	-12.3	-12.8	-11.4	UN
[関西]新設住宅着工(季節調整値、戸数)	11,571	11,012	10,909	12,406	10,469	11,804	11,852	9,411	10,927	10,682	11,070	UN
[関西]新設住宅着工(季節調整値、前月比%)	8.7	-4.8	-0.9	13.7	-15.6	12.8	0.4	-20.6	16.1	-2.2	3.6	UN
[全国]新設住宅着工(季節調整値、戸数)	75,236	74,624	70,649	70,990	67,744	72,615	75,420	66,390	67,267	65,826	68,962	UN
[全国]新設住宅着工(季節調整値、前月比%)	-0.6	-0.8	-5.3	0.5	-4.6	7.2	3.9	-12.0	1.3	-2.1	4.8	UN
[関西]マンション契約率(季節調整値)	77.7	74.5	59.5	74.1	68.4	74.9	70.3	78.4	49.8	69.4	65.7	73.5
[関西]マンション契約率(原数値)	75.7	73.8	60.1	71.0	66.80	75.3	69.2	77.9	50.0	70.4	67.4	78.2
[首都圏]マンション契約率(季節調整値)	57.2	47.0	58.2	60.3	66.1	58.3	65.6	79.8	72.3	70.9	58.1	68.1
[首都圏]マンション契約率(原数値)	56.8	42.6	55.2	61.3	63.0	59.3	70.0	78.9	72.3	73.2	62.4	68.5
[関西]建設工事(総合、10億円)	554.2	569.7	582.6	598.3	602.3	596.9	593.6	517.1	492.9	521.0	523.9	UN
[関西]建設工事(総合、前年同月比%)	4.5	5.6	3.8	2.1	2.7	2.4	3.3	3.3	-0.2	2.0	-1.0	UN
[全国]建設工事(総合、10億円)	4,561.6	4,736.5	4,798.4	4,840.1	4,771.0	4,627.6	4,666.7	3,873.6	3,701.1	3,887.8	4,000.8	UN
[全国]建設工事(総合、前年同月比%)	2.5	3.2	3.3	2.6	1.8	-0.3	0.7	-0.2	-2.1	-2.9	-3.2	UN
[全国]建設工事(公共工事、10億円)	1,835.0	2,005.9	2,086.1	2,136.0	2,135.5	2,055.7	2,134.0	1,492.6	1,387.7	1,521.6	1,594.0	UN
[全国]建設工事(公共工事、前年同月比%)	7.6	10.8	11.4	9.5	8.2	4.4	9.1	7.0	7.6	6.2	6.6	UN
[関西]公共工事前払保証額(10億円)	120.0	189.6	133.2	95.5	92.0	74.8	157.9	319.9	120.8	160.4	140.6	109.9
[関西]公共工事前払保証額(前年同月比%)	9.8	62.2	40.7	8.6	28.9	-6.4	44.5	45.0	-14.7	9.0	3.9	3.7
[全国]公共工事前払保証額(10億円)	1,275.1	1,348.0	911.0	803.8	641.5	699.4	1,487.0	2,305.4	1,329.1	1,638.6	1,543.2	1,300.9
[全国]公共工事前払保証額(前年同月比%)	4.6	5.1	11.3	-3.6	9.6	4.2	12.9	3.2	-6.4	13.2	-4.1	13.2
消費者心理												
[関西]消費者態度指数(原数値)	35.7	36.1	38.1	38.4	38.9	37.7	30.3	19.6	23.1	28.5	28.5	28.8
[関西]〃暮らし向き(原数値)	33.8	34.3	37.9	38.1	37.3	37.1	29.1	19.9	24.2	31.1	30.9	31.4
[関西]〃収入の増え方(原数値)	38.9	38.0	39.4	39.1	39.8	38.7	34.4	23.6	27.2	31.0	31.7	32.0
[関西]〃雇用環境(原数値)	41.8	40.6	40.6	40.6	41.5	38.4	27.5	12.9	15.8	21.0	20.5	20.7
[関西]〃耐久消費財の買い時判断(原数値)	28.1	31.6	34.6	35.7	36.8	36.5	30.0	22.1	25.2	30.9	30.9	31.0
[関西]消費者態度指数(季節調整値)	35.9	36.2	38.1	38.3	38.6	38.1	30.4	19.6	23.1	28.3	28.5	28.8
[関西]〃暮らし向き(季節調整値)	34.1	34.2	37.6	38.0	36.6	37.9	29.5	20.0	24.0	30.8	30.9	31.4
[関西]〃収入の増え方(季節調整値)	38.7	38.4	39.4	39.5	39.5	39.2	34.7	23.6	26.8	30.8	31.7	31.7
[関西]〃雇用環境(季節調整値)	41.7	40.9	40.6	40.3	41.6	38.7	27.3	12.8	15.9	20.8	20.6	20.7
[関西]〃耐久消費財の買い時判断(季節調整値)	28.1	31.6	34.9	35.2	36.3	36.7	29.8	22.3	25.5	30.8	30.8	31.3
[全国]消費者態度指数(季節調整値)	35.6	36.2	38.7	39.1	39.1	38.3	30.9	21.6	24.0	28.4	29.5	29.3
景況感												
[関西]景気ウォッチャー調査(現状DI、季節調整値)	50.4	39.9	40.2	40.2	40.9	25.1	12.7	5.8	17.1	37.0	41.1	43.7
[関西]景気ウォッチャー調査(先行き、季節調整値)	37.2	45.1	46.2	45.1	39.9	25.1	18.6	18.6	38.2	43.4	35.6	43.7
[全国]景気ウォッチャー調査(現状DI、季節調整値)	46.7	36.7	39.4	39.7	41.9	27.4	14.2	7.9	15.5	38.8	41.1	43.9
[全国]景気ウォッチャー調査(先行き、季節調整値)	36.9	43.7	45.7	45.5	41.8	24.6	18.8	16.6	36.5	44.0	36.0	42.4
国際貿易												
[関西]純輸出(10億円)	200.3	190.6	110.9	193.5	-126.1	417.0	245.2	55.8	26.8	102.3	150.8	208.2
[関西]輸出(10億円)	1,415.1	1,398.0	1,351.8	1,414.4	1,137.7	1,330.0	1,421.9	1,281.8	1,038.7	1,159.7	1,244.5	1,204.9
[関西]輸出(前年同月比%)	27.5	-7.9	-10.2	-4.1	-3.6	0.8	-5.2	-5.4	-17.0	-14.1	-11.8	-8.7
[関西]輸入(10億円)	1,214.8	1,207.3	1,240.9	1,220.9	1,263.8	913.1	1,176.7	1,226.0	1,011.9	1,057.4	1,093.7	996.7
[関西]輸入(前年同月比%)	30.3	-14.0	-16.5	-5.8	-7.4	-17.5	-4.2	-2.1	-19.6	-2.1	-18.5	-17.0

注：鉱工業生産 輸送機械工業は鋼船・鉄道車両除く。

【Release Calendar】

Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
31-Aug 全国鉱工業指数 (7月:速報) 商業動態統計 (7月:速報) 建築着工統計調査 (7月) 消費動向調査(8月)	1-Sep 労働力調査 (7月) 一般職業紹介状況 (7月)	2-Sep	3-Sep	4-Sep
7-Sep 百貨店・スーパー販売 状況(7月:速報) 中国輸出入 (8月:速報)	8-Sep 毎月勤労統計調査 (7月:速報) 景気ウォッチャー 調査 (8月)	9-Sep 中国 CPI (8月)	10-Sep 近畿圏貿易概況 (6月:確報) 近畿圏貿易概況 (7月:確・速報)	11-Sep 近畿地域鉱工業生産 動向 (7月:速報)
14-Sep 全国鉱工業指数 (7月:確報) 中国不動産市場 (8月)	15-Sep 公共工事前払金保証 統計 (8月) 商業動態統計 (7月:確報) 出入国管理統計 (8月:速報) 中国工業生産(8月) 中国固定資産投資 (8月) 中国消費小売総額 (8月)	16-Sep 全国貿易統計 (8月:速報) 近畿圏貿易概況 (8月:速報)	17-Sep マンション市場動向 (8月) 建設総合統計 (7月)	18-Sep 実質輸出入 (8月)
21-Sep 敬老の日	22-Sep 秋分の日	23-Sep	24-Sep 百貨店免税売上 (8月)	25-Sep 近畿地域鉱工業生産 動向 (7月:確報) 毎月勤労統計調査 (7月:確報) 出入国管理統計 (7月)
28-Sep	29-Sep 全国貿易統計 (7月:確報) 全国貿易統計 (8月:確・速報)	30-Sep 全国鉱工業指数 (8月:速報) 商業動態統計 (8月:速報) 建築着工統計調査 (8月)	1-Oct	2-Oct 労働力調査 (8月) 一般職業紹介状況 (8月) 消費動向調査 (9月)